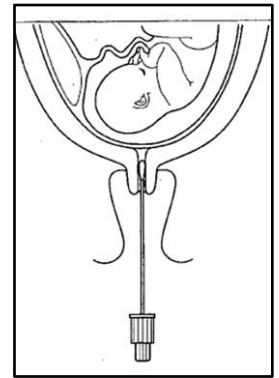


1. 採取方法

- ①子宮腔部の粘液を綿棒で丁寧に拭き取ります。
- ②綿棒を子宮頸管内腔に挿入します。
- ③綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液(浸出液)を採取します。

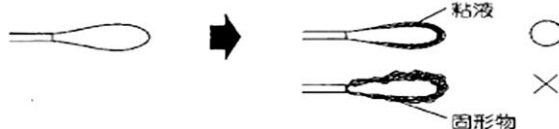
■注意事項

- 1)子宮頸管部より採取してください。
- 2)検体採取は腔部洗浄前に行ってください。
- 3)綿棒が子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにしてください。
綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入してください。
- 4)綿棒 1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液(浸出液)を浸み込ませるようにしてください。
少量の固形物が付着した場合には、ピンセット等で取り除いてください。又、大量の固形物が付着した場合には、検体採取ややり直してください。



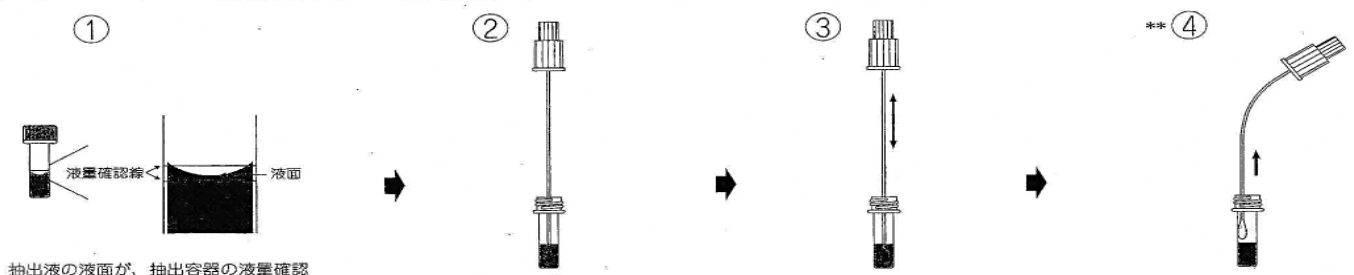
(採取前)

(採取後)



- 5)採取した検体は15分以内に抽出操作を行ってください。

2. 抽出方法

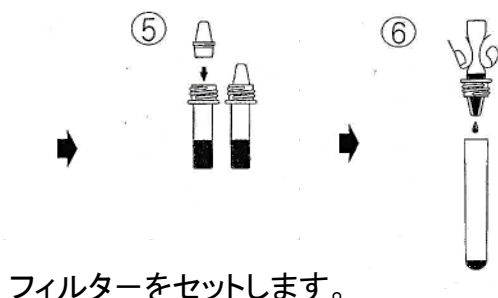


抽出液の液面が、抽出容器の液量確認線の間にあることを確認します。なお、抽出液がキャップ中線に付着している場合があるので、振り落とした後に液面の確認を行ってください。

頸管粘液(浸出液)を採取した綿棒を浸けて、2～3分間放置します。

綿棒を20～30回細かく上下させて検体を採取します。

**検体抽出液が浸み込んだ綿棒を、抽出容器壁面に軽く押し付けて、抽出液が滴らない程度にした後、取り除きます。



フィルターをセットします。

検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時加圧は1回のみとし、5～7滴(約300 μ L)を分取します。必要量を得られない場合は検体採取からやり直してください。



検体保存容器にキャップをし、容器ラベルを貼って保存します。冷蔵(8℃)で3日間以内、冷凍(-15℃以下)で3ヵ月以内に測定してください。